

平成24年度再評価対象事業一覧表 (再評価実施後、一定期間(5~10年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)  
 (対象:平成20年度再評価実施事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)
	再評価 時点 H20	有田川総合開発事業 (有田川水系 白川・猿川)  事業主体:県 事業地:有田町	ダム地点下流の洪水被害の軽減を図り、流水の正常な機能の維持、既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流量を確保する。 また、水道用水として有田町に対し、日量1,800m <sup>3</sup> の取水を猿川ダムの新設により可能にする。	全体事業費: 94億円  総貯水容量: 1,170千m <sup>3</sup> (猿川ダム) 1,880千m <sup>3</sup> (有田ダム)  工期:H4~	実施計画調査中  平成19年末進捗 6.5% (事業費ベース)	○”新”有田町スタート(有田町・西有田町):(H18年3月) ○総合計画 基本計画策定(H19年9月) ・水開発に関する内容: 「下水道整備・企業誘致・宅地開発など、今後の水需要の増大に考慮した水源の確保に努める。」 ○有田町の財政状況: ・平成18年度財政経常比率 県内最下位 ○有田川下流の伊万里市の状況 ・工場進出が決定し、急遽当面对応の日量2万5千トンの工業用水開発 ○補助金施設の転用・譲渡規制緩和の動き	(B/C) 1.00	(代替案の可能性)  河川改修案: ダム計画に比べ不経済である。	事業評価 実施後 5年経過	継続
	現時点 H24		ダム地点下流の洪水被害の軽減を図り、流水の正常な機能の維持、既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流量を確保する。 また、水道用水として有田町に対し、日量1,800m <sup>3</sup> の取水を猿川ダムの新設により可能にする。	全体事業費: 80億円  総貯水容量: 650千m <sup>3</sup> (猿川ダム) 1,880千m <sup>3</sup> (有田ダム)  工期:H4~	実施計画調査中  平成23年末進捗 7.6% (事業費ベース)	○有田町 ・社会情勢の変化(財政状況の悪化、少子・高齢化の進行等)により、新規水開発の必要性は低くなった。 ・猿川ダム予定地は、町内で水開発のための最後の砦と考えている。 ・財政状況:依然として厳しい。  ○伊万里市 ・事業への参画は考えない。 ・伊万里市第4工業用水道竣工 (H22.2)	(B/C) 0.96	(代替案の可能性)  水開発の必要性がなくなり、河川改修案が経済的である。	社会経済情勢の変化等	事業中止  ・水開発の必要性がなくなり、河川改修案が経済的で、ダム建設の必要性がなくなった。  ・中流域の人家連担地区で、局所的に治水安全度が低い箇所において、対策工を実施し治水安全度の向上に努める。
	理由等				平成17年度からゼロ予算となっている。	有田町の上水道に余裕があることや、工業用水確保についても、既存水源を充てる計画となったことから、利水開発の必要性がなくなった。	水開発の必要性がなくなったことにより、割高な治水専用ダムとなり、費用対効果が下がる。			